

App Bridge Notification
通知サービスガイド

Ver. 1.19.0

目次

1. 本書の役割	1
2. オーナレベルの通知設定	2
3. ノードレベルの通知設定	3
4. 標準通知先の登録	4
4.1 標準通知先の作成.....	4
4.2 ユーザ通知先の登録.....	6
4.3 オンデマンド通知先の登録.....	8
4.4 WebHook アドレス.....	11
4.4.1 App Bridge Kicker 連携.....	11
4.4.2 Slack 連携.....	14
4.4.3 Microsoft Teams 連携.....	16
5. 電話通知先の登録	20
5.1 ユーザ情報への電話番号登録.....	20
5.2 電話通知先の作成.....	22
5.3 ユーザ情報での電話番号登録.....	25
5.4 注意事項.....	27
5.4.1 自動発信電話番号.....	27
5.4.2 着信拒否.....	27
5.4.3 存在しない電話番号.....	27
5.4.4 電話発信間隔.....	27
5.4.5 未通話警告メッセージと再通知.....	28
5.4.6 留守番電話対応.....	28
6. 通知振分条件	29
7. 通知メッセージの抑止	33
7.1 通知抑止条件.....	33
7.2 通知メッセージの書き込み抑止.....	37
8. 通知のヒント	38
8.1 初期状態.....	38
8.1.1 初期状態の通知振分条件.....	38
8.1.2 初期状態の標準通知先.....	38
8.2 通知先に電子メールアドレスを追加する.....	38
8.3 自動電話通知を利用する.....	38
8.4 エラー回復通知は自動電話通知しない.....	39
8.5 電話通知で誰も出ないとき、別の電話通知先に再通知する.....	39
8.6 営業日の勤務時間内は通知先を変更する.....	40
8.7 特定のエラーをほかの人にも通知する.....	40
8.8 特定の時間帯は通知しない.....	41
8.8.1 特定時間帯の通知を抑止する.....	41

8.8.2 回復していないエラーを通知する.....	41
9. 通知メッセージのカスタマイズ.....	42

1. 本書の役割

本書は、App Bridge の通知設定について説明するものです。

2. オーナレベルの通知設定

オーナレベルの通知設定を変更するには、<メインメニュー/基本設定>の[オーナ基本設定]をクリックします。設定した内容は、オーナ全体に影響します。

オーナ基本設定		ノード基本設定	
Menu > オーナ基本設定			
		OK	Cancel
通知メッセージを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>		
標準通知を行う	<input checked="" type="checkbox"/>		
電話通知を行う	<input type="checkbox"/>		
センタメッセージバージョン		最新バージョン	▼

項目	内容	備考
通知メッセージを有効にする	本チェックを外すと、当該オーナの通知メッセージが「確認状態：抑止」で作成され、標準通知、電話通知が実施されなくなります	
標準通知を行う	本チェックを外すと、当該オーナの標準通知が実施されなくなります	
電話通知を行う	本チェックを外すと、当該オーナの電話通知が実施されなくなります	
センタメッセージバージョン	センタが発生させるメッセージのバージョンを指定します。 本項目は下位互換のために準備されています。システムが発生させるメッセージを Ver. 1.12.0 未満のバージョンから変更したくない場合に「下位互換」を選択して下さい。	「下位互換」を選択するとハートビートエラー回復の通知メッセージが通知されません。詳細は、「App Bridge Monitor Agent 監視サービスエラー判定条件ガイド/ハートビートエラー回復の通知メッセージを参照して下さい。

3. ノードレベルの通知設定

ノードレベルの通知設定を変更するには、<メインメニュー/基本設定/>のノード基本設定をクリックし、対象ノードを選択します。

項目	内容
通知メッセージを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>
標準通知を行う	<input checked="" type="checkbox"/>
電話通知を行う	<input checked="" type="checkbox"/>

項目	内容	備考
通知メッセージを有効にする	本チェックを外すと、当該ノードの通知メッセージが「確認状態：抑止」で作成されます。	
標準通知を行う	本チェックを外すと、当該ノードの標準通知が実施されなくなります	
電話通知を行う	本チェックを外すと、当該ノードの通知が実施されなくなります	

4. 標準通知先の登録

電子メール、Microsoft Teams、Slack への通知、App Bridge Kicker との連携を実施するためには、標準通知先の登録が必要です。標準通知先の登録手順は、以下のとおりです。

4.1 標準通知先の作成

通知先を設定するためには、<メインメニュー/監視設定/ノード一覧>の[標準通知先]をクリックします。



The screenshot shows a web interface with a top navigation bar containing several tabs: 'オーナー基本設定', 'エラー判定条件', 'カスタム監視', '抑止条件', '通知振分条件', '標準通知先', '電話通知先', and '監視照会'. The '標準通知先' tab is highlighted with a red box. Below the navigation bar, the breadcrumb 'Menu > ノード一覧' is visible. There is a search input field labeled 'ノードCD(前方一致)' and a '検索' button. A table below shows a list of nodes with columns: 'ノードCD', 'ノード名', '種類', and 'スケーリング制御'. One row is visible with 'WS1' as the node ID, 'Windowsサーバ1号機' as the name, 'Windows (Amazon EC2)' as the type, and a checkbox for scaling control.

新しい標準通知先を作成するには、表示された標準通知先一覧で、[追加]ボタンをクリックします。



The screenshot shows the '標準通知先一覧' page. The breadcrumb is 'Menu > ノード一覧 > 標準通知先一覧'. A table lists standard notification destinations with columns: 'コード', '通知先名', and '有効/無効'. One row is shown with code '_DEFAULT', name 'Default Mail Address', and status '有効'. A '追加' button is located in the top right corner and is highlighted with a red box.

表示された画面で標準通知先コード、標準通知先名を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > 標準通知先一覧 > 標準通知先設定

標準通知先コード	NOTIFICATION_001
標準通知先名	開発チーム連携
有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>

項目	内容	備考
標準通知先コード	標準通知先を一意に示すコードを1~50文字で指定します。許可される文字は、英字、数字、_（アンダースコア）です	英小文字は英大文字に変換されます
標準通知先名	標準通知先名を1~50文字で指定します。サロゲートペア文字指定できません	
有効にする	この通知先を有効とする場合チェックします。無効とした場合、通知対象にはなりません	

空の標準通知先が作成されます。

Menu > ノード一覧 > 標準通知先一覧 > 標準通知先詳細

標準通知先コード	NOTIFICATION_001
標準通知先名	開発チーム連携
有効/無効	有効

ユーザ通知先

	ユーザCD	ユーザ名	メールアドレス	種別	有効/無効	メッセージ通知電子メール

オンデマンド通知先

	通知先アドレス	種別	有効/無効

4.2 ユーザ通知先の登録

ユーザ情報を使って、電子メールアドレスを登録することができます。この方法で電子メールアドレスを登録すると、ユーザ情報の電子メールアドレス更新結果が標準通知先に反映されます。

ユーザ情報の電子メールアドレスを登録する場合、<メインメニュー/監視設定/ノード一覧/標準通知先/標準通知先一覧/対象標準通知先選択/標準通知先詳細>の[登録ユーザを通知先に追加]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > 標準通知先一覧 > 標準通知先詳細

変更 削除

標準通知先コード	NOTIFICATION_001
標準通知先名	開発チーム連携
有効/無効	有効

ユーザ通知先 登録ユーザを通知先に追加

ユーザCD	ユーザ名	メールアドレス	種別	有効/無効	メッセージ通知電子メール
< >					

オンデマンド通知先 指定アドレスを通知先に追加

通知先アドレス	種別	有効/無効
< >		

表示された画面で、対象ユーザ（ユーザ CD/ユーザ名）と送信種別（To、CC、BCC）を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > 標準通知先一覧 > 標準通知先詳細 > ユーザ通知先設定

OK 削除 Cancel

ユーザ(ユーザCD/ユーザ名)	sa1 / サービス管理者
送信種別	To

ユーザ通知先が登録されます。

Menu > ノード一覧 > 標準通知先一覧 > 標準通知先詳細

標準通知先コード	NOTIFICATION_001
標準通知先名	開発チーム連携
有効/無効	有効

ユーザ通知先

	ユーザCD	ユーザ名	メールアドレス	種別	有効/無効	メッセージ通知電
編集				To	有効	有効

オンデマンド通知先

通知先アドレス	種別	有効/無効
---------	----	-------

登録した電子メールアドレスに電子メールが送信されるためには、通知先が対象となった時点で、以下の条件を全て満たしている必要があります。

- オーナ基本設定の「標準通知を行う」が有効である
- ノード基本設定の「標準通知を行う」が有効である
- 標準通知先が有効である
- 対象のユーザ情報が有効である
- 対象ユーザ情報の「メッセージ通知電子メール受信」が有効である

4.3 オンデマンド通知先の登録

ユーザ情報を使用せず、通知する電子メールアドレス、WebHook アドレスを登録することができます。

オンデマンドで通知先を登録する場合、<メインメニュー/監視設定/ノード一覧/標準通知先/標準通知先一覧/対象標準通知先選択/標準通知先詳細>で、[指定アドレスを通知先に追加]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > 標準通知先一覧 > 標準通知先詳細

変更 削除

標準通知先コード	NOTIFICATION_001
標準通知先名	開発チーム連携
有効/無効	有効

ユーザ通知先 登録ユーザを通知先に追加

	ユーザCD	ユーザ名	メールアドレス	種別	有効/無効	メッセージ通知電
編集				To	有効	有効

< >

オンデマンド通知先 指定アドレスを通知先に追加

通知先アドレス	種別	有効/無効
---------	----	-------

表示された画面で、通知先アドレス、種別を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > 標準通知先一覧 > 標準通知先詳細 > オンデマンド通知先設定

OK 削除 Cancel

通知先アドレス	<input type="text"/>
種別	To ▼
有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>
備考	<input type="text"/>

通知先アドレスには、送信種別に応じて、以下のアドレスを設定して下さい。

種別	通知先アドレス	備考
To、CC、BCC	電子メールアドレス	
WebHook	WebHook アドレス	詳細は次節の「WebHook アドレス」参照

オンデマンド通知先が登録されます。

Menu > ノード一覧 > 標準通知先一覧 > 標準通知先詳細

[変更] [削除]

標準通知先コード	NOTIFICATION_001
標準通知先名	開発チーム連携
有効/無効	有効

ユーザ通知先 [登録ユーザを通知先に追加]

	ユーザCD	ユーザ名	メールアドレス	種別	有効/無効	メッセージ通知電
編集				To	有効	有効

オンデマンド通知先 [指定アドレスを通知先に追加]

	通知先アドレス	種別	有効/無効
編集		To	有効

登録した電子メールアドレスに電子メールが送信されるためには、通知先が対象となった時点で、以下の条件を全て満たしている必要があります。

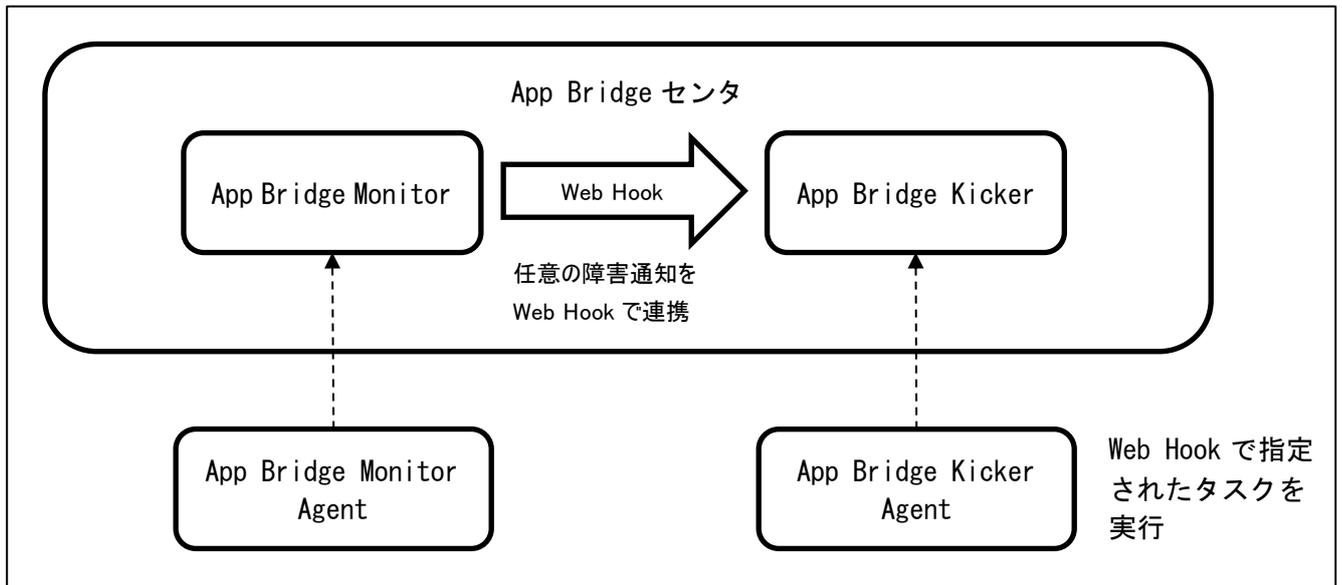
- オーナ基本設定の「標準通知を行う」が有効である
- ノード基本設定の「標準通知を行う」が有効である
- 標準通知先が有効である
- 対象の通知先アドレスが有効である

4.4 WebHook アドレス

オンデマンド通知先の種別に「WebHook」を指定した場合、指定された通知先アドレスに従って通知先が決定されます。

4.4.1 App Bridge Kicker 連携

通知メッセージが発生したとき、指定された App Bridge Kicker タスクインスタンスを生成します。



(1) App Bridge Kicker 連携対象

App Bridge Kicker 連携の対象は、同一オーナーのタスク定義に限ります。

(2) 通知先アドレス

App Bridge Kicker 連携では、以下の形式で起動するタスク定義を指定します。

`kicker.taskcd.nodes.tags`

要素	指定内容	備考						
kicker	固定文字 kicker							
taskcd	起動するタスク定義のタスクコード							
nodes	タスク定義に追加する実行ノード 以下のフィールドを:で連結した文字列 (※1) <table border="1"><thead><tr><th>順位</th><th>内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>ステップコード (※2)</td></tr><tr><td>2</td><td>ノードコード</td></tr></tbody></table> ex: STEP1:NODE1, #ALL:NODE2	順位	内容	1	ステップコード (※2)	2	ノードコード	※3
順位	内容							
1	ステップコード (※2)							
2	ノードコード							
tags	タスク定義に追加する実行タグ 以下のフィールドを:で連結した文字列 (※1) <table border="1"><thead><tr><th>順位</th><th>内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>ステップコード (※2)</td></tr><tr><td>2</td><td>タグ</td></tr></tbody></table> ex: STEP1:TAG1, #ALL:TAG2	順位	内容	1	ステップコード (※2)	2	タグ	※4
順位	内容							
1	ステップコード (※2)							
2	タグ							

※1: 複数項目を設定する場合、カンマ区切りの CSV 形式で指定します

※2: #ALL を指定したとき、全ステップに追加されます。ステップコードを省略したとき#ALL が仮定されます

※3: nodes も tags も指定しないとき、nodes 直前のピリオド以降を省略できます (kicker.taskcd)

※4: tags を指定しないとき、tags 直前のピリオドを省略できます (kicker.taskcd.nodes)

nodes を指定せず、tags を指定するときピリオドを連続して指定します (kicker.taskcd.tags)

(3) 代替文字列 %NodeCD%

ノードコードには代替文字列 %NodeCD% が指定できます。代替文字列 %NodeCD% は、実行時に通知メッセージのノードコードに変換されます。この代替文字列は、エラーを発生させたサーバでタスクを実行させたい場合に有効です。代替文字列 %NodeCD% をオーナレベルの通知メッセージに指定した場合、変換は実施されず、WebHook 処理がエラーとなります。

(4) 代替文字列 %ScalingTag%

タグには代替文字列 %ScalingTag% が指定できます。代替文字列 %ScalingTag% は、実行時に通知メッセージを発生させたサーバのスケージングタグ (※5) に変換されます。この代替文字列は、スケージングされているサーバの中から、エラーを発生させたサーバインスタンスでタスクを実行させたい場合に有効です。代替文字列 %ScalingTag% は、スケージングされたノードの Windows Agent、または Linux Agent から出力された通知メッセージを対象とします。それ以外の通知メッセージに %ScalingTag% を指定した場合、変換は実施されず、WebHook 処理がエラーとなります。

※5: スケージングタグについては、別紙 App Bridge Kicker 概説を参照下さい

(5) タスクインスタンス生成のループに関する注意

App Bridge Monitor で生成されたタスクインスタンスが異常終了した場合、通知メッセージが作成され、App Bridge Monitor で処理されます。この通知メッセージが同じタスクインスタンスを生成した場合、タスクインスタンスの生成と実行が無限に繰り返され、ループ状態となります。

タスクインスタンス生成のループを避けるため、App Bridge Monitor から生成されるタスクインスタンスを事前検証いただくとともに、App Bridge Monitor 通知振分け条件においてタスクインスタンス生成のループを避けるよう条件を設定して下さい。

タスクインスタンス生成のループが発生した場合、該当の App Bridge Monitor/Web Hook を無効とすることでループ状態を収束できます。本手順も事前に確認下さい。

4.4.2 Slack 連携

通知メッセージが発生したとき、指定されたチャンネルにメッセージを送信します。

(1) Slack アプリケーション作成

Slack 連携を実施するには、通知用の Slack アプリケーションが必要です。
Slack アプリケーション登録手順は、Slack サイト、または下記サイト (Qiita) を参照下さい。

<https://qiita.com/kou_pg_0131/items/56dd81f2f4716ca292ef>

(2) 通知先アドレス

Slack へ通知する場合、以下の形式で通知先アドレスを指定します。

`slack.channel.token`

Slack の通知先アドレスは、以下の 3 要素をピリオドで結合します。

要素	指定内容	備考
slack	固定文字 slack	
channel	通知先のチャンネル	
token	通知用 Slack アプリケーションの OAuth Access Token または Bot User OAuth Access Token	xoxp-または xoxb-で始まる文字列

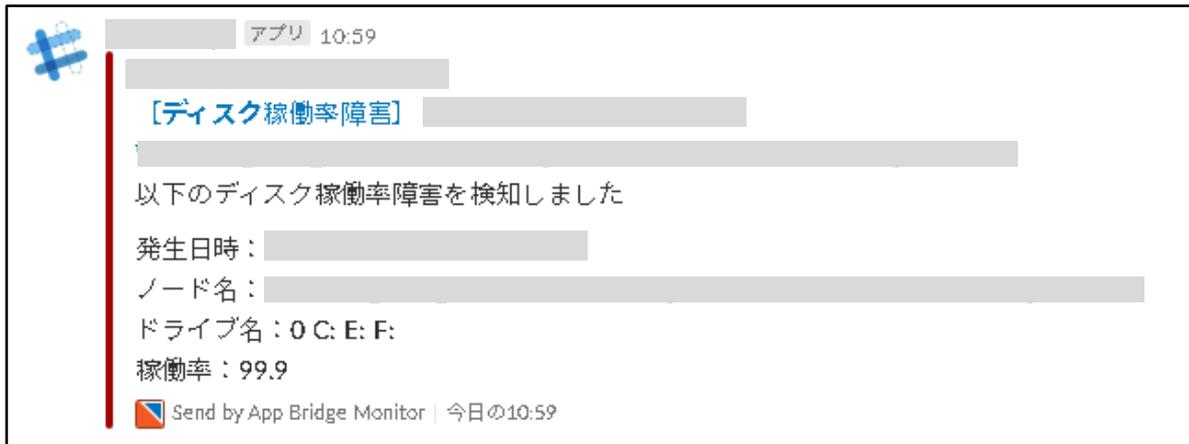
OAuth Access Token は以下の Slack 画面から取得します。

The screenshot shows the Slack 'Settings' page for an app, specifically the 'OAuth Tokens & Redirect URLs' section. On the left, there is a sidebar with 'Settings' and 'Features' sections. The main content area is titled 'OAuth Tokens & Redirect URLs' and 'Tokens for Your Workspace'. It explains that tokens were automatically generated and provides a link to 'Learn more'. There are two token entries: 'OAuth Access Token' with a value starting with 'xoxp-' and 'Bot User OAuth Access Token' with a value starting with 'xoxb-'. Both token values are highlighted with red boxes, and each has a 'Copy' button to its right. At the bottom of the token list, there is a green 'Reinstall App' button.

OAuth Access Token (xoxp-XXXX) を設定した場合は送信元がユーザとなり、Bot User OAuth Access Token (xoxb-XXXX) を設定した場合は送信元がボットとなります。

(3) 通知イメージ

Slack 連携で通知されるイメージは以下のとおりです。



4.4.3 Microsoft Teams 連携

通知メッセージが発生したとき、Incoming Webhook コネクタを経由し、指定されたチームにメッセージを送信します。

(1) コネクタ作成

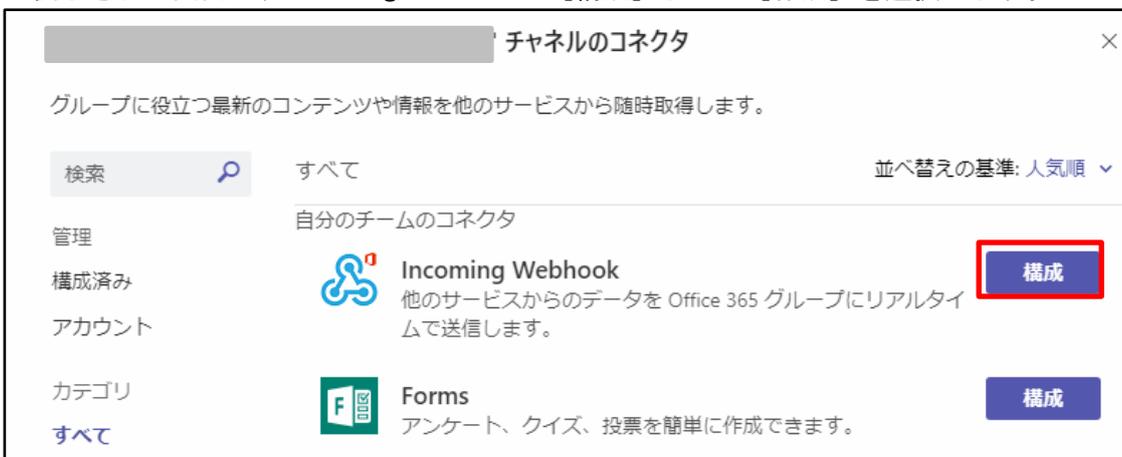
Microsoft Teams 連携を実施するには、通知先チームに Incoming Webhook コネクタを作成する必要があります。作成手順は、マイクロソフトの Web サイト [Teams チャンネルに受信 Webhook を追加する](#) を参照して下さい。

Incoming Webhook コネクタの作成手順の概要は以下のとおりです。

通知先となるチャンネルのナビゲーションバーから [...] → [コネクタ] を選択します。



表示された画面で、Incoming Webhook の [構成] または [作成] を選択します。



表示された画面で、名前を入力し、[作成] を選択します。入力した名前は、送信元の名称として表示されます。イメージは必要に応じて設定して下さい。App Bridge のイメージは、[App Bridge サポートサイト](#) からダウンロードして下さい。

チャンネルのコネクタ

Incoming Webhook フィードバックの送信

Incoming Webhook コネクタを利用すると、トラッキング対象の活動についての通知を外部サービスから受け取ることができます。このコネクタを使うには、別サービスで設定を作成する必要があります。そのサービスが、Office 365 コネクタ形式 対応の Web フックをサポートしている必要があります。

*が付いているフィールドは必須です

着信 Web フック (Incoming Webhook) をセットアップするには、名前を入力して [作成] を選んでください。*

App Bridge

この着信 Web フック (Incoming Webhook) からのデータに関連付ける画像をカスタマイズします。

イメージをアップロードします。

イメージは必要に応じてアップロード

作成 キャンセル

表示された URL をクリップボードにコピーし、「完了」を選択します。クリップボードにコピーした URL は、後述の通知先アドレスで使用します。

以下の URL をコピーしてクリップボードに保存してから、[保存] を選んでください。この URL は、グループへのデータ送信元となるサービスの画面で必要になります。



クリップボードにコピー

完了 削除

(2) 通知先アドレス

Microsoft Teams へ通知する場合、以下の形式で通知先アドレスを指定します。

teams.url

Microsoft Teams の通知先アドレスは、以下の要素をピリオドで結合します。

要素	指定内容	備考
teams	固定文字 teams	
url	Incoming Webhook コネクタでクリップボードにコピーした URL	

url には `https://<TenantName>.webhook.office.com/webhookb2/` から始まるアドレスのみが登録できます。これ以外のアドレス登録が必要な場合、App Bridge サポートまでご連絡下さい

(3) コネクタのレート制限とメッセージの集約

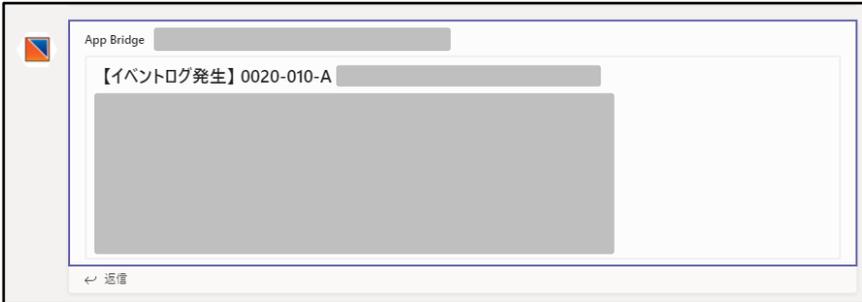
Microsoft Teams では、[コネクタのレート制限](#) が設定されており、通知量が制限されます。制限に抵触すると API コールは失敗し、通知連携が実施できなくなります。この制限を緩和するため、Microsoft Teams への WebHook 連携は以下のとおり実施されます。

- App Bridge は、5 秒以上の間隔で、オナーごとの Microsoft Teams 連携要求をチェックし、その間に発生した連携要求を 1 つに集約して送信します
- 連携要求を集約した場合、件名のみが表示されます。集約件数が 10 件を超えた場合、先頭 10 件の件名が表示されます。詳細は後述の「通知イメージ」を参照して下さい
- 連携要求を集約した件名には、App Bridge サイト（当該通知メッセージ）へのハイパーリンクが設定されます
- コネクタのレート制限で API コールが失敗した場合、次回の通知連携は 120 秒後に実施されます

(4) 通知イメージ

Microsoft Teams 連携で通知されるイメージは以下のとおりです。

【1件の通知を検知した場合】



【2～10件の通知を検知した場合】

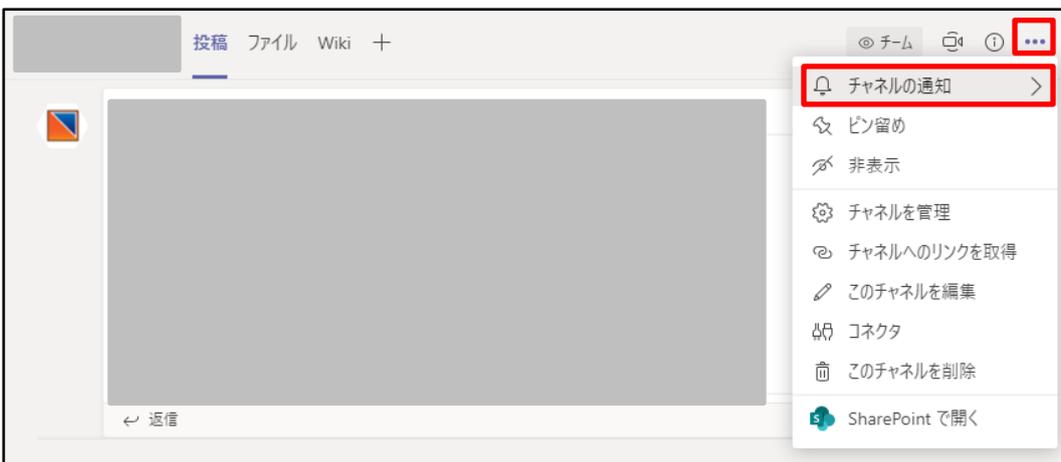


【11件以上の通知を検知した場合】



(5) チャンルの通知

メッセージの着信を PC やスマートフォンで通知したい場合、通知先チャンネルの通知先となるチャンネルのナビゲーションバーから [...] → [チャンネルの通知] を選択し、設定して下さい。



5. 電話通知先の登録

電話通知を実施するためには、電話通知先を登録する必要があります。電話通知先の登録手順は以下のとおりです。

5.1 ユーザ情報への電話番号登録

電話通知先に登録する電話番号は、ユーザ情報に登録する必要があります。

ユーザ情報の電話番号を登録するには、<メインメニュー/ログインユーザ情報変更>を使用します。EnterpriseAdmin ロールでログインしている場合、<メインメニュー/ユーザ管理>から実施することも可能です。

ログインユーザ情報詳細で、[電話番号登録]ボタンをクリックします。

Menu > ログインユーザ情報詳細

変更 **電話番号登録** パスワード変更 削除

ユーザID	admin
ユーザ名	
ロール	EnterpriseAdmin
メールアドレス	
電話番号	
呼び出し時間(秒)	
電話番号ステータス	未登録
有効	<input checked="" type="checkbox"/>
備考	
許可されたアプリケーションオーナーID	
ログイン許可	<input checked="" type="checkbox"/>
API利用許可	<input checked="" type="checkbox"/>
センタ通知電子メール受信	<input checked="" type="checkbox"/>
メッセージ通知電子メール受信	<input checked="" type="checkbox"/>

表示された画面で電話番号などを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

Menu > ログインユーザ情報詳細 > 電話番号登録

現在のステータス：未登録 OK 削除 Cancel

ユーザID	admin
ユーザ名	{
電話番号	<input type="text"/>
呼び出し時間 (秒)	15 呼び出し時間に15秒より大きな値を指定する場合、当該電話に留守番電話機能が付与されていないことを確認して下さい
確認待ちとして登録する	<input type="checkbox"/>

項目	内容	備考
電話番号	発信先の電話番号を指定します。現時点では国内の電話番号のみが登録可能です	
呼び出し時間	当該電話番号を呼び出す時間を指定します。この時間を越えても通話状態とならない場合、応答なしとなります。登録電話番号に留守番電話機能が付与されている場合、留守番電話状態となると、通話したと見なされます。この状態を回避するため、留守番電話機能が付与されている電話番号では、留守番電話に切り替わるまでの秒数より小さな値（通常 15 秒以下）を指定して下さい	
確認待ちとして登録する	チェックして登録した場合、確認待ちとなります。当該機能は、EnterpriseAdmin が電話番号を登録した際、ユーザ本人に電話番号を確認させたい場合を想定しています。確認待ち状態では、電子メールによる確認、自動電話による確認を実施することが可能です	

確認依頼を実施するには、ユーザ詳細画面の電話番号の「確認電子メール送信」、「確認電話発信」の何れかをクリックして下さい。

Menu > ユーザー一覧 > ユーザ詳細

変更 電話番号登録 パスワードリセット 削除

ユーザID	{
ユーザ名	{
ロール	NodeAdmin
メールアドレス	{
電話番号	{ 登録許可 登録拒否 確認電子メール送信 確認電話発信
呼び出し時間 (秒)	15

5.2 電話通知先の作成

電話通知先を設定するためには、<メインメニュー/監視設定/ノード一覧>の[電話通知先]をクリックします。

Menu > ノード一覧

ノードCD(前方一致)

ノードCD	ノード名	種類	スケーリング制御
WS1	Windowsサーバ1号機	Windows (Amazon EC2)	<input type="checkbox"/>

新しい電話通知先を作成するには、表示された電話通知先一覧で、[追加]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > 電話通知先一覧

コード	通知先名	有効/無効
-----	------	-------

表示された画面で電話通知先コードなどを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > 電話通知先一覧 > 電話通知先設定

OK Cancel

電話通知先コード	<input type="text"/>
電話通知先名	<input type="text"/>
有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>
電話発信間隔 (分)	<input type="text" value="30"/>
電話発信確認範囲	<input type="radio"/> Any <input checked="" type="radio"/> SameID この電話通知先が発信対象となったとき、電話発信履歴に「現在時刻-電話発信間隔」以内のものが存在していれば今回の電話発信は実施されません。電話発信確認範囲がAnyの場合全ての電話発信履歴が確認対象となり、SameIDの場合は同じ電話通知先の電話発信履歴が確認対象となります。
電話発信リトライ回数	<input type="text" value="5"/> 電話通知先に定義された全ての電話番号が通話不能であった場合、電話発信リトライ回数に従って、リストの最上位から再発信を試みます。電話発信リトライ回数分のリトライを実施しても通話不能であった場合、センタ内で、通話不能のエラー通知が生成され、当該オーナーに通知されます。このエラー通知をトリガーとして、別の電話通知先で電話発信することが可能です。
電話発信リトライ間隔 (分)	<input type="text" value="3"/>

項目	内容	備考
電話通知先コード	電話通知先を一意に示すコードを 1~50 文字で指定します。許可される文字は、英字、数字、_ (アンダースコア) です	英小文字は英大文字に変換されます
電話通知先名	電話通知先名を 1~50 文字で指定します。サロゲートペアは文字指定できません	
有効にする	この電話通知先を有効とする場合チェックします。無効とした場合、電話通知の対象にはなりません	
電話発信間隔 (分)	電話発信間隔を 10 分~60 分の範囲で指定します。指定された期間に、電話発信確認範囲で示す電話通知先が通知対象となっていれば、電話通知しません	※1
電話発信確認範囲	<ul style="list-style-type: none"> Any 電話発信間隔内に、何れかの電話通知先が通知対象となっていれば、電話通知しません Same ID 電話発信間隔内に、同じ電話通知先が通知対象となっていれば、電話通知しません 	※2
電話発信リトライ回数	電話通知先に登録された電話番号が全て通話状態とならなかった場合のリトライ回数を 0~10 の範囲で指定します。リトライ回数を消化しても、通話状態とならない場合、App Bridge センタのセンタメッセージ (警告) が記録されます。当該エラー通知をトリガーとして、別の電話通知先に発信することも可能です (※2)	
電話発信リトライ間隔 (分)	電話発信リトライを実施する際の間隔を指定します。	

※1：詳細は、後述の注意事項/電話発信間隔を参照下さい

※2：詳細は、後述の注意事項/未通話警告メッセージと再通知を参照下さい

空の電話通知先が作成されます。

Menu > ノード一覧 > 電話通知先一覧 > 電話通知先詳細

電話通知先コード	PHONE001
電話通知先名	開発チーム
有効にする	有効
電話発信間隔 (分)	30
電話発信確認範囲	Same ID
電話発信リトライ回数	5

電話通知先 (ユーザ)

発信順序番号	ユーザID	ユーザ名	電話番号	電話番号登録	有効/無効
--------	-------	------	------	--------	-------

5.3 ユーザ情報での電話番号登録

ユーザ情報を使って、電話番号を登録します。ユーザ情報の電話番号を更新すると、電話通知先の電話番号も変更されます。

ユーザ情報の電話番号を登録する場合、<メインメニュー/監視設定/ノード一覧/電話通知先/電話通知先一覧/対象電話通知選択/電話通知先詳細>で該当のコードをクリックし、[登録ユーザから通知先を追加]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > 電話通知先一覧 > 電話通知先詳細

[変更] [削除]

電話通知先コード	PHONE001
電話通知先名	開発チーム
有効にする	有効
電話発信間隔 (分)	30
電話発信確認範囲	SameID
電話発信リトライ回数	5

電話通知先 (ユーザ) [発信順序番号を10番刻みで振り直す] [登録ユーザから通知先を追加]

発信順序番号	ユーザCD	ユーザ名	電話番号	電話番号登録	有効/無効
--------	-------	------	------	--------	-------

表示された画面で、ユーザ (ユーザ CD/ユーザ名) のプルダウンメニューから対象ユーザを選択し、[OK] ボタンをクリックします。発信順序番号の昇順に自動電話発信されます。1つの電話通知先に登録できる件数は最大 20 件です。

Menu > ノード一覧 > 電話通知先一覧 > 電話通知先詳細 > 電話通知先設定 (ユーザ)

[OK] [削除] [Cancel]

発信順序番号	<input type="text" value="1"/>
ユーザ(ユーザCD/ユーザ名)	<input type="text" value="-"/>

電話番号が登録されます。

Menu > ノード一覧 > 電話通知先一覧 > 電話通知先詳細

電話通知先コード	PHONE001
電話通知先名	開発チーム
有効にする	有効
電話発信間隔(分)	10
電話発信確認範囲	SameID
電話発信リトライ回数	0

電話通知先(ユーザ)

発信順序番号	ユーザID	ユーザ名	電話番号	電話番号登録ス	有効/無効
編集 1				登録完了	有効

登録した電話番号に自動電話発信されるためには、電話通知先が対象となった時点で、以下の条件を全て満たしている必要があります。

- オーナ基本設定の「電話通知を行う」が有効である
- ノード基本設定の「電話通知を行う」が有効である
- 電話通知先が有効である
- 対象のユーザ情報が有効である
- 対象ユーザ情報の電話番号ステータスが「登録完了」である

5.4 注意事項

5.4.1 自動発信電話番号

以下の電話番号から自動発信します。当該電話番号は、発信専用です。

App Bridge 発信専用電話番号
050-3188-6605

5.4.2 着信拒否

着信拒否系には、統一規格が存在せず、キャリア、機種によって、発生する制御信号が異なります。このため、着信拒否系の操作を実施した場合、様々な挙動が発生し、結果を保証できません。自動電話発信先として登録される場合、着信拒否操作を実施しないようお願いします。

5.4.3 存在しない電話番号

存在しない電話番号に発信した場合、キャリアなどによって、発生する制御信号が異なります。このため、電話発信結果が発信失敗となった場合、電話番号の再確認をお願い致します。

5.4.4 電話発信間隔

電話発信間隔は、短時間に多数の電話発信を発生させないための機能です。電話発信時に、電話発信インシデントを以下の条件で検索します。

電話発信確認範囲	検索範囲
Any	全ての電話発信インシデントを検索します
Same ID	同じ通知先を持つ電話発信インシデントのみを検索します

上記検索範囲に下記条件の何れかに該当する電話発信インシデントが存在する場合、電話発信が抑止されます。

- ステータスが「処理中」
- ステータスが「正常終了」であり、終了日時からの経過時間が電話発信間隔（分）を越えていない

上記以外のステータス（失敗、キャンセルなど）を持つ電話インシデントは上記判断に影響しない点にご注意下さい。

5.4.5 未通話警告メッセージと再通知

(1) 電話インシデント未通話メッセージ

電話通知先に登録された電話番号が全て通話状態とならなかった場合、指定回数に従ってリトライを実施します。リトライ回数を消化しても、通話状態が確認できなかった場合、下記メッセージが通知メッセージとして記録されます。

項目	内容	備考
メッセージ種別	警告メッセージ	
通知コード	9901-100-C	
件名	【電話発信インシデント未通話】 9901-100-C %OwnerCD%	
本文	電話発信インシデントが通話状態とならないまま終了しました 元メッセージ情報は以下のとおりです 発生日時 : %BaseTime% 通知コード : %BaseMessageCD% 件名 : %BaseSubject%	

代替文字列	内容	備考
%OwnerCD%	オーナーコード	
%BaseTime%	元通知メッセージの発生日時	
%BaseMessageCD%	元通知メッセージの通知コード	
%BaseSubject%	元通知メッセージの件名	

(2) 未通話メッセージをトリガーとした再通知

通知振分条件を設定することで、記録された電話インシデント未通話メッセージをトリガーとして、任意の電話通知先、標準通知先へ再通知することができます。

設定方法の詳細は、後述の「電話通知で誰も出ないとき、別の電話通知先に再通知する」を参照して下さい。

5.4.6 留守番電話対応

登録電話番号に留守番電話機能が付与されている場合、留守番電話状態となると、通話したと見なされ、次の電話番号呼び出しが実施されません。

この状態を回避するため、留守番電話機能が付与されている電話番号では、ユーザ情報に電話番号を登録する際、呼び出し時間を留守番電話に切り替わるまでの秒数より小さな値（通常 15 秒以下）を指定して下さい。

6. 通知振分条件

通知振分条件は、発生した通知メッセージの通知先を決定する設定です。通知振分条件は、順序番号順に評価され、指定された電子メール送信、電話自動発信を実施します。

通知振分条件を設定するためには、<メインメニュー/通知設定>の[通知振分条件]をクリックします。新しい通知振分条件を追加するためには、[追加]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > 通知振分条件一覧

検索条件

順序番号

通知振分条件コード(正規表現)

有効/無効

並び替え条件

ソートキー

昇順/降順

順序番号	通知振分条件コード	通知振分条件名	有効/無効	データ更新日時
1	PHONE_ERROR	電話通知未通話	有効	2017-03-03 14:28:23
9999	_DEFAULT	Default Notification Route	有効	2017-03-03 15:29:06

表示された画面で、通知振分条件を指定します。通知メッセージが指定した全ての条件に該当したとき、指定された標準通知先、電話通知先への通知を実施します。

通知振分条件は、順序番号順に評価されます。通知メッセージが通知振分条件に該当し、「後続振分条件の評価」がチェックされている場合、後続の通知振分条件が評価されます。これにより、1つの通知メッセージを複数の通知先に通知することができます。

何れの通知振分条件にも該当しない場合、電子メール送信、自動電話発信は実施されません。

Menu > ノード一覧 > 通知振分条件一覧 > 通知振分条件設定

OK Cancel

順序番号	1	通知振分条件は順序番号の昇順に評価されます
通知振分条件コード		
通知振分条件名		
有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>	
利用開始日時	2017-03-04	12:53
利用終了日時	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> <input type="text"/>	
後続振分条件の評価	<input type="checkbox"/> 本条件に該当したとき、後続の振分条件を評価する	

振分条件

設定した全ての条件が満たされたとき、本振分条件に該当したと見なされます

ノードCDを比較する正規表現	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> <input type="button" value="Check"/>
ノードタグ	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> Tag,Tag,Tag,...
メッセージの種類と発生理由	<input checked="" type="checkbox"/> 設定する <input checked="" type="radio"/> すべてのエラーメッセージとエラー回復 <input type="radio"/> 発生理由を指定する <input type="text" value="すべて"/> <input type="checkbox"/> Information <input type="checkbox"/> Warning <input type="checkbox"/> Error
通知コードを比較する正規表現	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> <input type="button" value="Check"/>
件名を比較する正規表現	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> <input type="button" value="Check"/> <input type="checkbox"/> 件名の大小文字を無視する
本文を比較する正規表現	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> <input type="button" value="Check"/> <input type="checkbox"/> 本文の大小文字を無視する <input type="checkbox"/> 確認前にデータをスリム化する ※スリム化の詳細は「 正規表現とは 」を参照してください
指定日(MM/DD)	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> ※カンマ区切りで複数の日付を指定できます
休日属性	<input type="checkbox"/> 設定する カレンダーCD <input type="text"/> <input checked="" type="radio"/> 休日 <input type="radio"/> 営業日
曜日指定	<input type="checkbox"/> 設定する 月曜 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 第一週 <input type="checkbox"/> 第二週 <input type="checkbox"/> 第三週 <input type="checkbox"/> 第四週 <input type="checkbox"/> 第五週 <input type="checkbox"/> 第六週 ※週の始まりを日曜とします
指定時刻	<input type="checkbox"/> 設定する 開始時刻 <input type="text"/> 終了時刻 <input type="text"/>

通知先

標準通知先	<input type="text" value="選択しない"/>
電話通知先	<input type="text" value="選択しない"/>

項目	内容																
順序番号	通知振分条件の評価順を 1~2147483647 で指定します。通知振分条件は順序番号昇順で評価されます。																
通知振分条件コード	通知振分条件を一意に示すコードを 1~50 文字で指定します。許可される文字は、英字、数字、_（アンダースコア）です。英小文字は英大文字に変換されます																
通知振分条件名	通知振分条件名を 1~50 文字で指定します。サロゲートペア文字は指定できません																
有効にする	チェックされないとき、常に非該当となります																
利用開始日時	利用日時>現在時刻のとき、非該当となります																
利用終了日時	「設定する」がチェックされ、現在時刻>終了日時のとき、非該当となります																
後続振分条件の評価	チェックしている場合、通知メッセージが本通知振分条件に該当しても、後続の通知振分条件が評価されます。これにより、1つの通知メッセージを複数の通知先に通知することができます。																
ノード CD を比較する正規表現	「設定する」がチェックされ、通知メッセージのノード CD が指定された正規表現に該当しないとき非該当となります																
ノードタグ	「設定する」がチェックされ、通知メッセージのノードが指定されたノードタグに該当しないとき非該当となります																
メッセージの種類と発生理由	<p>① 「設定する」がチェックされ、「発生理由を指定する」が選択された場合、通知メッセージの発生理由、メッセージ種類 (Information、Warning、Error) が一致しないとき、非該当となります</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>発生理由</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>すべて</td> <td>全てのメッセージ</td> </tr> <tr> <td>エラー発生検知</td> <td>ステータスが Error 以外→Error に変化</td> </tr> <tr> <td>エラー回復検知</td> <td>ステータスが Error→Good、Error→Warning に変化</td> </tr> <tr> <td>警告発生検知</td> <td>ステータスが Good→Warning、Unknown→Warning に変化</td> </tr> <tr> <td>警告回復検知</td> <td>ステータスが Warning→Good に変化</td> </tr> <tr> <td>メッセージ受信</td> <td>メッセージ送信コマンド、REST API からのメッセージ受信。ユーザメッセージ監視サービスガイドを参照して下さい</td> </tr> <tr> <td>センタメッセージ</td> <td>App Bridge センタからのメッセージ受信</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 「設定する」がチェックされ、「すべてのエラーメッセージとエラー回復」が選択された場合、以下の何れにも該当しないとき、非該当となります</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発生理由が「エラー発生検知」である ● 発生理由が「エラー回復検知」である ● 発生理由が「メッセージ受信」でメッセージ種類が Error である ● 発生理由が「センタメッセージ」でメッセージ種類が Error である 	発生理由	内容	すべて	全てのメッセージ	エラー発生検知	ステータスが Error 以外→Error に変化	エラー回復検知	ステータスが Error→Good、Error→Warning に変化	警告発生検知	ステータスが Good→Warning、Unknown→Warning に変化	警告回復検知	ステータスが Warning→Good に変化	メッセージ受信	メッセージ送信コマンド、REST API からのメッセージ受信。ユーザメッセージ監視サービスガイドを参照して下さい	センタメッセージ	App Bridge センタからのメッセージ受信
発生理由	内容																
すべて	全てのメッセージ																
エラー発生検知	ステータスが Error 以外→Error に変化																
エラー回復検知	ステータスが Error→Good、Error→Warning に変化																
警告発生検知	ステータスが Good→Warning、Unknown→Warning に変化																
警告回復検知	ステータスが Warning→Good に変化																
メッセージ受信	メッセージ送信コマンド、REST API からのメッセージ受信。ユーザメッセージ監視サービスガイドを参照して下さい																
センタメッセージ	App Bridge センタからのメッセージ受信																
通知コードを比較する正規表現	「設定する」がチェックされ、通知メッセージの通知コードが指定された正規表現に該当しないとき、非該当となります。通知コードの詳細は、通知メッセージガイドを参照して下さい																
件名を比較する正規表現	「設定する」がチェックされ、通知メッセージの件名が指定された正規表現に該当しないとき、非該当となります																
本文を比較する正規表現	<p>「設定する」がチェックされ、通知メッセージの本文が指定された正規表現に該当しないとき非該当となります。スリム化は複数行データのマッチングを容易とするものです。「確認前にデータをスリム化する」が指定された場合、比較対象の文字列に対し、以下の編集を実施し、編集後の文字列を指定された正規表現で審査します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 改行をタブに変更します ② 空白を除去します ③ 文頭、文末のタブを除去します 																

指定日	「設定する」がチェックされ、App Bridge センタの現在時刻が指定された月日に該当しない場合、非該当となります。月日は MM/DD 形式で指定します。カンマで区切ることで、最大 100 の月日が指定できます
休日属性	① 「設定する」がチェックされ、「休日」が選択された場合、App Bridge センタの現在時刻が指定されたカレンダーの営業日であった場合、非該当となります ② 「設定する」がチェックされ、「営業日」が選択された場合、App Bridge センタの現在時刻が指定されたカレンダーの休日であった場合、非該当となります 指定されたカレンダーの対象年が設定されていない場合、全ての日が営業日として処理されます
曜日指定	「設定する」がチェックされ、App Bridge センタの現在時刻が指定された曜日、週目に該当しない場合、非該当となります。週目は、週の始まりを日曜としてカウントします。例えば、当該月の 1 日が土曜の場合、第一週に該当するのは 1 日のみとなります
指定時刻	「設定する」がチェックされ、App Bridge センタの現在時刻が指定された範囲にない場合、非該当となります。時刻の入力形式は、HH:MM であり、00:00~47:59 の範囲が指定可能です。開始時刻 ≤ 終了時刻であり、開始時刻と終了時刻の差を 24 時間未満とする必要があります。例えば、発生時刻を 23:00~25:00 とした場合、23:00~AM1:00 を指定したこととなります
標準通知先	送信対象とする標準通知先を指定します
電話通知先	自動発信対象とする電話通知先を指定します

7. 通知メッセージの抑止

7.1 通知抑止条件

抑止条件は、発生した通知メッセージを抑止したい場合の設定です。抑止された通知メッセージは、「確認状態：抑止」の通知メッセージとして記録され、後述の通知振分の対象とはならず、標準通知、電話通知は実施されません。

通知抑止を設定するためには、＜メインメニュー/監視設定＞の[抑止条件]をクリックします。

Menu > ノード一覧

ノードCD(前方一致)

ノードCD	ノード名	種類	スケーリング制御
WS1	Windowsサーバ1号機	Windows(Amazon EC2)	<input type="checkbox"/>

新しい抑止条件を追加するためには、[追加]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > 抑止条件一覧

検索条件

抑止条件コード(正規表現)

有効/無効

並び替え条件

ソートキー

昇順/降順

抑止条件コード	抑止条件名	有効/無効	データ更新日時
---------	-------	-------	---------

表示された画面で、抑止条件を指定します。通知メッセージが設定した全ての条件に該当したとき、通知メッセージは、「確認状態：抑止」の通知メッセージとして記録され、後述の通知振分の対象とはならず、電子メール送信、自動電話発信は実施されません。

Menu > ノード一覧 > 抑止条件一覧 > 抑止条件設定

設定した全ての条件が満たされたとき、本抑止条件に該当したと見なされます OK Cancel

抑止条件コード	<input type="text"/>
抑止条件名	<input type="text"/>
有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>
利用開始日時	2017-03-03 <input type="text"/> 17:38 <input type="text"/>
利用終了日時	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> <input type="text"/>
ノードIDを比較する正規表現	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> <input type="button" value="Check"/>
ノードタグ	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> Tag,Tag,Tag,...
メッセージの種類と発生理由	<input type="checkbox"/> 設定する <input checked="" type="radio"/> すべてのエラーメッセージとエラー回復 <input checked="" type="radio"/> 発生理由を指定する <input type="text" value="すべて"/> <input type="checkbox"/> Information <input type="checkbox"/> Warning <input type="checkbox"/> Error
通知コードを比較する正規表現	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> <input type="button" value="Check"/>
件名を比較する正規表現	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> <input type="button" value="Check"/> <input type="checkbox"/> 件名の大小文字を無視する
本文を比較する正規表現	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> <input type="button" value="Check"/> <input type="checkbox"/> 本文の大小文字を無視する <input type="checkbox"/> 確認前にデータをスリム化する ※スリム化の詳細は「 正規表現とは 」を参照してください
発生日 (MM/DD)	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text"/> ※カンマ区切りで複数の日付を指定できます
発生日の休日属性	<input type="checkbox"/> 設定する カレンダーID <input type="text" value="CALENDAR1"/> <input type="radio"/> 休日 <input type="radio"/> 営業日
発生日の曜日	<input type="checkbox"/> 設定する <input type="text" value="月曜"/> <input type="checkbox"/> 第一週 <input type="checkbox"/> 第二週 <input type="checkbox"/> 第三週 <input type="checkbox"/> 第四週 <input type="checkbox"/> 第五週 <input type="checkbox"/> 第六週 ※週の始まりを日曜とします
発生時刻	<input type="checkbox"/> 設定する 開始時刻 <input type="text"/> 終了時刻 <input type="text"/>
通知メッセージを作成する	<input checked="" type="checkbox"/>

項目	内容																
抑止条件コード	抑止条件を一意に示すコードを 1~50 文字で指定します。許可される文字は、英字、数字、_（アンダースコア）です。英小文字は英大文字に変換されます																
抑止条件名	抑止条件名を 1~50 文字で指定します。サロゲートペア文字は指定できません																
有効にする	チェックされないとき、常に非該当となります																
利用開始日時	利用日時>現在時刻のとき、非該当となります																
利用終了日時	「設定する」がチェックされ、現在時刻>終了日時のとき、非該当となります																
ノード CD を比較する正規表現	「設定する」がチェックされ、通知メッセージのノード CD が指定された正規表現に該当しないとき非該当となります																
ノードタグ	「設定する」がチェックされ、通知メッセージのノードが指定されたノードタグに該当しないとき非該当となります																
メッセージの種類と発生理由	<p>① 「設定する」がチェックされ、「発生理由を指定する」が選択された場合、通知メッセージの発生理由、メッセージ種類（Information、Warning、Error）が一致しないとき、非該当となります</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>発生理由</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>すべて</td> <td>全てのメッセージ</td> </tr> <tr> <td>エラー発生検知</td> <td>ステータスが Error 以外→Error に変化</td> </tr> <tr> <td>エラー回復検知</td> <td>ステータスが Error→Good、Error→Warning に変化</td> </tr> <tr> <td>警告発生検知</td> <td>ステータスが Good→Warning、Unknown→Warning に変化</td> </tr> <tr> <td>警告回復検知</td> <td>ステータスが Warning→Good に変化</td> </tr> <tr> <td>メッセージ受信</td> <td>メッセージ送信コマンド、REST API からのメッセージ受信。 ユーザメッセージ監視サービスガイドを参照して下さい</td> </tr> <tr> <td>センタメッセージ</td> <td>App Bridge センタからのメッセージ受信</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 「設定する」がチェックされ、「すべてのエラーメッセージとエラー回復」が選択された場合、以下の何れにも該当しないとき、非該当となります</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発生理由が「エラー発生検知」である ● 発生理由が「エラー回復検知」である ● 発生理由が「メッセージ受信」でメッセージ種類が Error である ● 発生理由が「センタメッセージ」でメッセージ種類が Error である 	発生理由	内容	すべて	全てのメッセージ	エラー発生検知	ステータスが Error 以外→Error に変化	エラー回復検知	ステータスが Error→Good、Error→Warning に変化	警告発生検知	ステータスが Good→Warning、Unknown→Warning に変化	警告回復検知	ステータスが Warning→Good に変化	メッセージ受信	メッセージ送信コマンド、REST API からのメッセージ受信。 ユーザメッセージ監視サービスガイドを参照して下さい	センタメッセージ	App Bridge センタからのメッセージ受信
発生理由	内容																
すべて	全てのメッセージ																
エラー発生検知	ステータスが Error 以外→Error に変化																
エラー回復検知	ステータスが Error→Good、Error→Warning に変化																
警告発生検知	ステータスが Good→Warning、Unknown→Warning に変化																
警告回復検知	ステータスが Warning→Good に変化																
メッセージ受信	メッセージ送信コマンド、REST API からのメッセージ受信。 ユーザメッセージ監視サービスガイドを参照して下さい																
センタメッセージ	App Bridge センタからのメッセージ受信																
通知コードを比較する正規表現	「設定する」がチェックされ、通知メッセージの通知コードが指定された正規表現に該当しないとき、非該当となります。通知コードの詳細は、通知メッセージガイドを参照して下さい																
件名を比較する正規表現	「設定する」がチェックされ、通知メッセージの件名が指定された正規表現に該当しないとき、非該当となります																
本文を比較する正規表現	<p>「設定する」がチェックされ、通知メッセージの本文が指定された正規表現に該当しないとき非該当となります。スリム化は複数行データのマッチングを容易とするものです。「確認前にデータをスリム化する」が指定された場合、比較対象の文字列に対し、以下の編集を実施し、編集後の文字列を指定された正規表現で審査します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 改行をタブに変更します ② 空白を除去します ③ 文頭、文末のタブを除去します 																
発生日	「設定する」がチェックされ、通知メッセージの発生日時が指定された月日に該当しない場合、非該当となります。月日は MM/DD 形式で指定します。カンマで区切ることで、最大 100 の月日が指定できます																
発生日の休日属性	<ol style="list-style-type: none"> ① 「設定する」がチェックされ、「休日」が選択された場合、通知メッセージの発生日が指定されたカレンダーの営業日であった場合、非該当となります ② 「設定する」がチェックされ、「営業日」が選択された場合、通知メッセージの発生日が指定されたカレンダーの休日であった場合、非該当となります 																

	指定されたカレンダーの対象年が設定されていない場合、全ての日が営業日として処理されます
発生日の曜日	「設定する」がチェックされ、通知メッセージの発生日が指定された曜日、週目に該当しない場合、非該当となります。週目は、週の始まりを日曜としてカウントします。例えば、当該月の1日が土曜の場合、第一週に該当するのは1日のみとなります
発生時刻	「設定する」がチェックされ、通知メッセージの発生時刻が指定された範囲にない場合、非該当となります。時刻の入力形式は、HH:MM であり、00:00~47:59 の範囲が指定可能です。開始時刻 \leq 終了時刻であり、開始時刻と終了時刻の差を 24 時間未満とする必要があります。例えば、発生時刻を 23:00~25:00 とした場合、23:00~AM1:00 を指定したこととなります
通知メッセージを作成する	チェックが外された通知抑止条件に該当した場合、通知メッセージを記録しません。これにより、当該通知メッセージは次節の「通知メッセージの書き込み抑止」の対象外となります。発生した通知メッセージが複数の通知抑止条件に該当した場合、何れか1つでもチェックが外された通知抑止条件に該当すれば、通知メッセージは記録されません

7.2 通知メッセージの書き込み抑止

センタの負荷を軽減し、電子メール等の大量送信を回避するため、以下の条件で通知メッセージの書き込みを抑止します。書き込み抑止された通知メッセージは、センタに記録されず、通知されません。

(1) 書き込み抑止条件

通知メッセージの種類	書き込み抑止条件
イベントログ	同一サーバインスタンスの同一イベント(※1)を持つ通知メッセージの書き込み件数を発生日時(分)内10メッセージに抑止します
テキストログ	同一サーバインスタンスの同一ファイルパス(※2)を持つ通知メッセージの書き込み件数を発生日時(分)内10メッセージに抑止します
ユーザメッセージ(※3) オーナレベル	同一メッセージ種類(※4)、同一通知コードを持つ通知メッセージの書き込み件数を発生日時(分)内10メッセージに抑止します
ユーザメッセージ(※3) ノードレベル	同一サーバインスタンス、同一メッセージ種類(※4)、同一通知コードを持つ通知メッセージの書き込み件数を発生日時(分)内10メッセージに抑止します

※1: 同じイベントログ(システム、アプリケーションなど)の同一ソース、同一イベントIDを同一イベントとします

※2: テキストログファイルごとに抑止判定されます

※3: メッセージ送信コマンドで作成された通知メッセージです。詳細は、以下のマニュアルを参照下さい

- ・ App Bridge Monitor ユーザメッセージ監視サービスガイド
- ・ App Bridge メッセージガイド/ユーザメッセージ監視の通知メッセージ

※4: ユーザメッセージには、エラーメッセージ、警告メッセージ、情報メッセージの3種類があります

(2) 抑止発生通知

通知メッセージの書き込み抑止が発生した場合、抑止発生の通知メッセージを発生させます。当該通知メッセージは、他の通知メッセージと同様に処理され、通知されます。

生成される通知メッセージの詳細は、マニュアル「App Bridge 通知メッセージガイド/センタ発信の通知メッセージ」を参照下さい。

8. 通知のヒント

8.1 初期状態

初期状態の通知振分条件は、標準的な通知条件が発生したとき、EnterpriseAdminに電子メール送信されるよう設定されます。

8.1.1 初期状態の通知振分条件

初期状態では、通知振分条件コード_DEFAULTが以下の設定で作成されています。

項目	内容
順序番号	9999
通知振分条件コード	_DEFAULT
通知振分条件名	Default Notification Route
後続振分条件の評価	本条件に該当したとき、後続の振分条件を評価しない
メッセージの種類と発生理由	すべてのエラーメッセージとエラー回復
標準通知先	_DEFAULT
電話通知先	選択しない

8.1.2 初期状態の標準通知先

初期状態では、標準通知先_DEFAULTが登録されています。標準通知先_DEFAULTにはEnterpriseAdminとして登録いただいた電子メールアドレスをオンデマンド通知先（種別：To）として設定しています。

8.2 通知先に電子メールアドレスを追加する

初期状態から通知先の電子メールアドレスを追加するためには、標準通知先_DEFAULTに電子メールアドレスを追加して下さい。ユーザとして登録する方の電子メールアドレスであれば、ユーザ情報から電子メールアドレスを追加します。メーリングリストなど、ユーザとは直接関係ない電子メールアドレスであれば、オンデマンド通知先として登録します。

8.3 自動電話通知を利用する

初期状態では、電話通知先は登録されていません。自動電話通知を利用する場合、電話通知先を作成し、通知振分条件に設定して下さい。初期状態では、作成した電話通知先コードを通知振分条件コード_DEFAULTに設定すると全ての通知で自動電話通知が実施されます。

項目	内容
順序番号	9999
通知振分条件コード	_DEFAULT
通知振分条件名	Default Notification Route
後続振分条件の評価	チェックしない
メッセージの種類と発生理由	全てのエラーメッセージとエラー回復
標準通知先	_DEFAULT
電話通知先	追加した電話通知先

8.4 エラー回復通知は自動電話通知しない

通知振分条件コード_DEFAULT に電話通知先コードを設定すると、エラー回復メッセージが発生したときも電話発信されます。

エラー回復メッセージでは電話発信を実施しない場合、<メインメニュー/監視設定/通知振分条件>で以下の通知振分条件を追加します。この通知振分条件により、エラー回復メッセージは電子メール送信のみ実施され、後続の振分条件は評価されないため、自動電話発信は実施されません。

項目	内容
順序番号	通知振分条件コード_DEFAULT より小さな値を指定する
後続振分条件の評価	チェックしない
メッセージの種類と発生理由	「発生理由を指定する」「エラー回復検知」を選択する
標準通知先	標準通知先_DEFAULT
電話通知先	選択しない

8.5 電話通知で誰も出ないとき、別の電話通知先に再通知する

自動電話発信でリトライを全て消化しても、誰も電話に出ないとき、<メインメニュー/監視設定/通知振分条件>で以下の通知振分条件を追加することで、別の通知先に再通知できます。

項目	内容
順序番号	通知振分条件コード_DEFAULT より小さな値を指定する
後続振分条件の評価	チェックしない
メッセージの種類と発生理由	「発生理由を指定する」「センタメッセージ」を選択し、「Warning」をチェックする
通知コードを比較する正規表現	^9901-100-C\$ 本文の大小文字を無視する：チェックしない
本文を比較する正規表現	^(?!.*9901-100-C).+\$ 本文の大小文字を無視する：チェックしない 確認前にデータをスリム化する：チェックする ※ 元となった通知メッセージが「電話インシデント未通話メッセージでないこと」を確認する正規表現です。当該正規表現を設定しない場合、通話状態を確認できるまで、再通知が再帰的に繰り返されます
標準通知先	任意の標準通知先を選択する
電話通知先	任意の電話通知先を選択する

この設定は電話インシデント未通話メッセージを利用するものです。電話インシデント未通話メッセージについては、前述の「未通話警告メッセージと再通知」を参照して下さい。

8.6 営業日の勤務時間内は通知先を変更する

営業日の勤務時間内に発生したメッセージの通知先を変更する場合、まず<メインメニュー/カレンダー管理>でカレンダーを登録し、<メインメニュー/監視設定/通知振分条件>で以下の通知振分条件を作成します。この例では、勤務時間の始業を 9:00、終業を 17:30 としています。

項目	内容
順序番号	通知振分条件コード_DEFAULT より小さな値を指定する
後続振分条件の評価	チェックしない
メッセージの種類と発生理由	全てのエラーメッセージとエラー回復
休日属性	登録したカレンダーを指定し、「営業日」を選択する
指定時刻	開始時刻に 09:00、終了時刻に 17:30 を指定する
標準通知先	任意の標準通知先を選択する
電話通知先	任意の電話通知先を選択する

8.7 特定のエラーをほかの人にも通知する

特定のエラー通知メッセージが発生したとき、通常のお知らせに加え、別の通知先に通知する場合、<メインメニュー/監視設定/通知振分条件>で以下の通知振分条件を作成します。この例では、ノード CD が SERVER1 または SERVER2 のテキストログ監視で、ログに「ERROR:1000」の文字列が記載された場合に別の通知先に通知します。この例では、後続振分条件の評価をチェックしているため、後続の通知振分条件コード_DEFAULT の通知先にも通知されます。

項目	内容
順序番号	通知振分条件コード_DEFAULT より小さな値を指定する
後続振分条件の評価	チェックする
ノード CD を比較する正規表現	^SERVER(1 2)\$
メッセージの種類と発生理由	「設定する」をチェックしない
通知コードを比較する正規表現	^0100-010-A\$
本文を比較する正規表現	ERROR:1000 本文の大小文字を無視する：チェックする 確認前にデータをスリム化する：チェックする
標準通知先	任意の標準通知先を選択する
電話通知先	任意の電話通知先を選択する

8.8 特定の時間帯は通知しない

8.8.1 特定時間帯の通知を抑止する

特定の時間帯に標準通知、自動電話発信を実施したくない場合、<メインメニュー/監視設定/抑止条件>以下の抑止条件を追加します。この例では、日曜の 23:00 から翌月曜の 1:00 までに発生した全ての通知を抑止しています。

項目	内容
メッセージの種類と発生理由	「設定する」をチェックしない
発生日の曜日	日曜を選択し、全ての週目をチェックする
発生時刻	開始時刻に 23:00、終了時刻に 25:00 を指定する

8.8.2 回復していないエラーを通知する

特定時間帯が終了したとき、回復していないエラーがあれば、通知させることができます。

この通知を実施するには、App Bridge Monitor が提供する ShowStatus コマンド、SendErrorAPI コマンドを特定時間帯が終了した時点で実行します。

下記例では、ShowStatus コマンドでノード SERVER1 のステータスを標準出力に出力し、Find でエラーのステータスを持つ行に絞り込み、SendErrorAPI コマンドの標準入力に引き継いでいます。

SendErrorAPI コマンドは、標準入力の内容が空値のとき、メッセージを送信しないため、ノード SERVER1 でエラーが発生している場合のみ通知が発生します。

```
@echo off
ShowStatus -n SERVER1 | Find "[Error]" | SendErrorAPI
```

ShowStatus コマンド、SendErrorAPI コマンドは、REST API を使用しており、インターネットへの HTTPS 接続が可能な任意の Windows 上で動作します。

ShowStatus コマンド、SendErrorAPI コマンドのインストール方法、使用方法については、以下のマニュアルをご参照下さい。

- App Bridge Tools 連携ツールガイド

9. 通知メッセージのカスタマイズ

App Bridge では、通知メッセージの件名、本文を、通知コードごとにカスタマイズすることができます。

詳細は、以下のマニュアルをご参照下さい。

- App Bridge 通知メッセージガイド